

小川平吉 政党政治家。大陸問題に関心をもち、次々と問題を起こして、結局政治生命を失った。

おがわへいきち

戊辰戦争終 1869 = 信濃国諏訪郡神戸村で、古くからの呉服商小川金蔵の三男に生まれる。

明治6年政変 1873 = 4歳 :

大久保暗殺 1878 = 9歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1880 = 11歳 : 早くも、小学校助教となり、

明治14年政変 1881 = 12歳 :

岩倉具視没 1883 = 14歳 : 家出のように上京し、明治法律学校や司法省正則法律学校などを経て、

内閣発足 1885 = 16歳 : 東京大学予備門に入学、

国民之友始 1887 = 18歳 :

帝国憲法発布 1889 = 20歳 : 第一高等中学校を卒業し、_帝国大学法科大学に進学、

大本教 1892 = 23歳 : _卒業して、弁護士となった。

日清戦争始 1894 = 25歳 :

白馬会 1896 = 27歳 :

八幡製鉄始 1897 = 28歳 : 原嘉道・花井卓蔵らと日本弁護士協会を組織し司法部の革新をめざす。この頃、大陸問題に関心をもち、

子規句歌革新 1898 = 29歳 : 江木衷・花井卓蔵らと江湖倶楽部を組織、

ビア国産化 1900 = 31歳 : *ロシアの満洲占領に対し、近衛を擁して国民同盟会を組織し、一旦解散したのち

田中正造直訴 1901 = 32歳 : 近衛篤磨の組織した東亜同文会に参加、やがて幹事となった。

教科書疑獄 1902 = 33歳 : 対露同志会を組織して対露戦の輿論喚起に尽力。立憲政友会の成立とともに入党、

日比谷公園 1903 = 34歳 : 衆議院議員に初当選(以後当選10回)するが、この年政友会革新運動をおこして脱党、また河野広中・尾崎行雄・秋山定輔らと勅語奉答文事件を計画し、議会の解散を招く。

日露戦争始 1904 = 35歳 : 日露戦争中から宋護・李容九らと親交をむすび、後年ともに日韓併合に尽力。

日露戦争終 1905 = 36歳 : *日露講和条約締結にあたって、河野広中・大竹貫一らとともに講和条件を不満とし、講和問題同志会を組織、日比谷焼打事件の発端を作る。

韓国併合 1910 = 41歳 : 政友会に復帰。

大逆事件判決 1911 = 42歳 : _辛亥革命勃発とともに、同志と有隣会を組織して南方革命派を援助。

明治天皇没 1912 = 43歳 :

大正政変 1913 = 44歳 : _東亜同文会幹事長となる。

第一次大戦始 1914 = 45歳 : 「対支平和根本策」を加藤高明外相に建議し、21箇条要求の一つの発端となる。

21ヶ条要求 1915 = 46歳 : _政友会幹事長、

本格政党内閣 1918 = 49歳 : _東京弁護士会会長。

大暴落 1920 = 51歳 : 原内閣のもとで国務院総裁に就任。この頃から東亜問題とともに「思想」問題にも努力し、

原敬首相暗殺 1921 = 52歳 :

関東大震災 1923 = 54歳 : _大東文化協会を創立、副会長となり、

治安維持法 1925 = 56歳 : *日刊新聞{日本}を発刊して日本精神の発揚につとめる一方、護憲三派内閣司法大臣となり、左翼運動の抑圧にあたる。

金融恐慌 1927 = 58歳 : _田中内閣の鉄道大臣となり、共産党弾圧(治安維持法の改正)・対中国強硬外交に尽力。

共産党事件 1928 = 59歳 : 張作霖爆死事件につき最初に情報を得てその処置に奔走するなどしたが、

世界恐慌 1929 = 60歳 : *五私鉄疑獄事件に連坐して収監され、政治生命を失った(のち有罪判決)。

満州事変 1931 = 62歳 :

五一五事件 1932 = 63歳 :

その後も満洲問題・対ソ強硬論で活動を続け、

日中戦争始 1937 = 68歳 : 日中戦争開始とともに、蒋介石との直接和平交渉の必要を主張して積極的に活動し、特に先代以来懇意であった近衛文麿を通じて軍部にも働きかけ、また菅野長知を使って蒋介石ら国民政府要人との接触を図ったが結局成功せず、国粹主義の立場から統制経済・三国同盟・日米開戦にも強く反対するなどして、

日米開戦 1941 = 72歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1942 = 73歳 :

没した。
駅名板をローマ字全廃かつ右横書きを主張するなど極端な国粹主義者であった。